

シンポジウム ⑤ 「『沈黙の春』 発刊 50 周年記念 映画と講演と語らい」

日時 2012年12月2日(日) 13:30~16:00

場所 天理市文化センター

第1部 映画「レイチェル・カーソンの感性の森」上映(米/2008年制作/55分)

時間 13時30分~14時25分

レイチェル・カーソンは1962年に『沈黙の春』を世に出し、殺虫剤のDDTが自然界に及ぼす危険性を警告したことで有名だが、一方で、彼女は自然環境と人間の関わりを「感性」で捉えようとしたことでも有名。自然を支配しようとする考え方が一般的な欧米社会の中でも、自然界の深淵さを「センス・オブ・ワンダー」と表現した。



映画「レイチェル・カーソンの感性の森」のちらし。



基調講演をする上遠恵子氏。

第2部 基調講演 レイチェル・カーソンに学ぶ『感性の森』づくり

時間 14時30分~15時15分

講演者 上遠恵子氏(レイチェル・カーソン日本協会会長)

上遠恵子氏は、講演の中で、「センス・オブ・ワンダー」とは、「深く堆積した枯葉を、サクッ、サクッと音を立てて歩く時のような、心の底に響く神的な感覚」と述べた。まるで社叢林の深い森の中で感じるような感性に似ているのかもしれない。



冬の「山の辺の道」に積もった落葉。



上遠恵子氏と佐藤孝則理事長との語らい。

第3部 サロントーク

時間 15時30分～16時

対談者 上遠恵子氏 & 佐藤孝則（理事長、天理大学おやさと研究所教授）

第3部の「語らい」のなかで、上遠恵子氏は、レイチェル・カーソンは『沈黙の春』（1962年）の著者としてあまりにも有名で、米国化学業界の妨害にも屈せず DDT の危険性を説いた勇猛果敢な女性というイメージが当初は強かったが、実はそうではないと述べた。1941年に『潮風の下で』を出版して文学的才能を開花させ、1951年には『われらをめぐる海』、1955年には『海辺』をそれぞれ出版したベストセラー作家だった。さらに、1956年にはエッセイ「子どもたちにふしぎさへの目を開かせよう」を発表（死後『センス・オブ・ワンダー』として出版）したように、カーソン女史は自然に対する心あたたかい思いを文学書にする、感性豊かな女性だったという。